



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2007年（平成19年）

3月5日号 No. 1390

目次

■ロシア市場における日本の食品・食材の可能性	芳地 隆之	1
■トピックス		5
飛騨家具メーカー、シラカワがロシアにおける受注に成功／			5
四国電力がロシアおよびウクライナから研修生を受け入れ／			6
みずほコーポレート銀行がカザフスタン大手2行と提携／			6
■エトセラ		6
ロシア連邦商工会議所プレゼンテーションを開催／			6
■ロシアNIS貿易会関連の行事予定		7
■ロシア・NIS諸国通貨の為替レート		7

ロシア市場における日本の食品・食材の可能性

はじめに

当会は国庫事業の一環として、ロシア市場における日本の食品および食材の売込みの可能性を調査するため、2007年2月4日～11日にかけて、食品加工機械メーカーならびに食品メーカーの専門家の方を当会職員とともにモスクワへ派遣した。

2000年代に入り、ロシアの首都で日本食レストランが次々とオープンしているのは周知のとおりである。モスクワ市内の日本食レストランの数は、スシバーの類も含めれば、すでに1,000店に達するというが、現在のブームは圧倒的に「スシ」が占めており、その他の食材の可能性については未知数の部分が多い。そこで今回の訪問では従来の日本食の枠組みを広げ、農薬や化学肥料を一切使わず工場生産できる野菜であるもやしと、同様に工場生産が確立されている豆腐、ならびに水産加工品（珍味等）を取り上げ、大手スーパーマーケットの食品購買担当者に導入条件についてヒアリングを行ったほか、代表的な日本食レストラン・チェーンを経営する企業の方々と面談をした。今号ではその概要を報告する。